

(平成 31 年 4 月試験研究業務月報)

試験研究課題：露地ネギ栽培におけるべと病を中心とした病害の予防防除技術の確立

情 報

ネギべと病に対する予防防除技術確立のための発生病消長調査

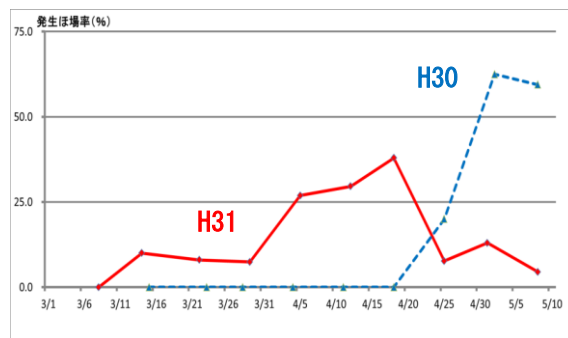
府内ネギ産地では、平成 28～30 年に 3 年連続してべと病が多発(写真左)し、甚大な被害が発生しています。防除対策としては、発生前(病徴を認識する前)からの予防防除が有効であるとされていますが、その実施適期や防除効果が不明のため、現状では実施されていません。

そこで、予防防除の実施適期を明確にするために、2 月下旬から府内現地ほ場を巡回し、見取りによる発生病消長調査を実施しています。今年の調査では、3 月中旬に初発生が、4 月中旬に発生のピークが見られ、昨年よりは、発生ほ場率が低いものの、発生時期は早くなりました(右図)。

今後も発生病消長調査を継続して本病の初発生の時期を特定することにより、予防防除の実施適期を明確にし、ネギの安定生産に寄与します。



べと病(右下)が多発し、収穫皆無となった現地ほ場(平成 29 年)



府内におけるネギべと病の発生状況